

【第1号議案】にいがた文化の記憶館 平成25年度 事業報告

1. 概要

平成25年度事業計画にもとづき、①常設展②特別展③イベント④講演・解説活動⑤顕彰館・団体との連携普及活動を実施した。

常設展では開設当初からの相関図「医学」「中国学」「美術」「文学」の4分野、受章者コーナー「文化勲章」「文化功労者」「人間国宝」を紹介。関連資料展示のため、ご遺族や県内顕彰館などから資料を借用した。

特別展は開設特別記念「藤蔭静樹と遠藤実展」に続き、スライド映像による「亀倉雄策展」、林武作品寄贈を契機とした「林家四代と良寛歌集展」、新潟市・京都市 観光・文化交流宣言締結記念「日本サッカーの源流 蹴鞠の装束展」、出張展示「日本のアンデルセン 小川未明」「酒博士 坂口謹一郎」を開催した。

イベントはオープニング行事「講演＋舞踊と音楽のうたげ」を開催。特別展示関連事業としては特別講演「藤蔭静樹と遠藤実—二人の文化功労者—」「飛鳥井家の蹴鞠 実演と体験」「小川未明童話の新しい扉をひらく」を開催した。

講演・解説活動としては、開設記念講演をはじめ、館内外で年7本の講演活動を行った。

最後に、顕彰館・団体との連携普及活動としては8月19日にネットワーク協議会を開催。それを契機に上越市より出張展示の提案を受け「日本のアンデルセン小川未明」「酒博士坂口謹一郎」の資料を展示、関連イベントも実施した。

2. 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	普及イベント（講演会） 参加者総数
252日／301日間	48日／301日間	7,277人	1,021人

※平成26年度の開館日（292／365日間）、休館日（73／365日間）

3. 展示事業

① 常設展示

No.	テーマ	会期	開催日数	備考
1	医学（8名）	6月4日～3月31日	252	※資料の展示替え：10月下旬、12月下旬の2回実施
2	中国学（8名）			
3	美術（8名）			
4	文学（8名）			
5	文化勲章（9名）			
6	文化功労者（10名）			
7	人間国宝（5名）			

② 特別展示

I. 藤蔭静樹と遠藤実展

会 期	平成 25 年 6 月 4 日（火）～10 月 27 日（日） 125 日間		
主 催	にいがた文化の記憶館		
広報媒体	チラシ（A4）、ホームページ		
趣 旨	開設特別記念展として文化功労者の藤蔭静樹と遠藤実の功績を紹介した。各々の人となりが分かるような遺品計 21 点を展示した。開催中は展示内容に合わせた特別講演、イベントを行った。		
関連事業	① 特別講演「藤蔭静樹と遠藤実—二人の文化功労者—」 開催日：8 月 1 日（木） 会場：クロスパルにいがた 講師：神林館長 ② 八一祭／にいがた文化の記憶館開設記念「講演＋舞踊と音楽のうたげ」 開催日：8 月 9 日（金） 会場：りゅーとびあ能楽堂 ※4-①参照		
総 括	○評価点 ・ 開設前の時間のない中で、多くの方のご協力のもとに展示が出来た。 ■検討課題 ・ チラシを発送するなどの広報作業が出来なかった。		
入場者数	5, 193 人	関連事業参加人数	①65 人 ②280 人
関連記事	7 月 12 日（金） 新潟日報 朝刊「藤蔭静樹と遠藤実 偉業紹介の講演会 来月 1 日、新潟」 7 月 25 日（木） 新潟日報 朝刊「斑鳩の四季」「法隆寺讃歌」八一の短歌 箏曲に」 7 月 30 日（火） 新潟日報 朝刊「藤蔭静樹と遠藤実 講演で功績知って 1 日、新潟」 8 月 10 日（土） 新潟日報 朝刊「愛される八一魅力探る 唐招提寺執事 鑑真との共通点講演」		
担 当	石垣 雅美		

I. 亀倉雄策展

会 期	平成 25 年 7 月 28 日（日）～10 月 27 日（日） 79 日間		
主 催	にいがた文化の記憶館		
広報媒体	—		
趣 旨	開設特別記念展として文化功労者の亀倉雄策のポスター作品をスライドで紹介。		
総 括	○評価点 ・ 亀倉の代表的なポスター作品を選定し、グラフィックデザイナーとして初の文化功労者として紹介できた。 ■検討課題 ・ スライド展示だけでは内容が薄かったため、他資料と併せた展示構成を練るべきであった。		
入場者数	※藤蔭・遠藤展の入場者数に含む。	関連事業参加人数	—
担 当	石垣 雅美		

II. 林家四代と良寛歌集展

会 期	平成 25 年 9 月 6 日（金）～12 月 26 日（木） 98 日間		
主 催	にいがた文化の記憶館		
広報媒体	—		
趣 旨	<p>林武の油彩画作品 1 点を寄贈されたことから、実は新潟とのゆかりが深い林家四代の業績を紹介する趣旨で開催した。画家・林武の曾祖父（国雄）は本居宣長や平田篤胤に学んだ水戸出身の国学者で、良寛と交流があったといわれる。その養子となった甕雄は、越後に長く滞在し、残された良寛の歌を編んだ。息子の甕臣は越後で生まれ、明治以降、日本語に関して独自の思想を展開した。武は東京生まれだが、父祖の衣鉢を継ぎ、国語問題にも熱心に取り組んだ。祖父・甕雄の編んだ『良寛禅師歌集』を介して、相馬御風とも親交を持った。本展では、この林家四代を中心に、良寛歌集の成立をめぐる人物相関図を作成し、今ではあまり知られていない意外な人脈を明らかにしようと試みた。</p>		
総 括	<p>○評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前から、良寛に関する展示がないと来館者等の指摘があったので、そのニーズに応えることが出来た。 ・新潟ではあまり知られていない、良寛歌集を巡る人物を紹介することが出来た。 ・人物相関図はわかりやすい相関を心掛けて作成できた。 <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・覗きケースの納品が遅れたことから、展示開始が中途半端な時期からになり、広報のタイミングを逃し、十分な周知が行えなかった。 ・同時開催のテーマ展示、および特別展示との関連が薄く、展示空間にまとまりがなかった。各展示にメリハリをつける工夫が必要。 		
入場者数	※藤蔭・遠藤展、蹴鞠展に含む。	関連事業参加人数	—
関連記事	<p>6 月 29 日（土）新潟日報 朝刊 [話かご]（林武作品寄贈の記事）</p> <p>10 月 31 日（木）新潟日報 朝刊（文化欄）「国学者の系譜をたどる 埋もれた研究に御風が光」秋岡啓子</p>		
担 当	秋岡 啓子		

III. 京都市・新潟市 観光・文化交流宣言締結記念 日本サッカーの源流 蹴鞠の装束展

会 期	平成 25 年 10 月 29 日（火）～12 月 26 日（木） 53 日間		
主 催	にいがた文化の記憶館		
共 催	新潟市	協力	蹴鞠保存会
広報媒体	チラシ（A4）		
趣 旨	<p>新潟市と京都市が観光・文化交流宣言を結んだことを記念し、ふだん間近にみる機会の少ない、代表的な公家文化の一つである「蹴鞠」に触れてもらおうという趣旨で開催した。現在も京都市を拠点に活動する蹴鞠保存会から、実際に使用されている装束一式、鞠を借用して展示した。また戦国時代、蹴鞠の家元・飛鳥井家から佐渡の本間家に送られた蹴鞠鴨沓の免状を合わせて展示することで、新潟にも蹴鞠の伝統が伝わっていたことを示し</p>		

	た。開催中、蹴鞠保存会会員による実演と、参加者による体験イベントを行った。		
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥井家の蹴鞠 実演と体験（主催：新潟市、当館） 開催日：12月14日（土）～15日（日）（※3回実施） 会場：クロスパルにいがた		
総括	○評価点 <ul style="list-style-type: none"> ・調査の段階で、新潟と蹴鞠の関係を発見することが出来た。 ・新潟市と共催したイベントで、京都市の蹴鞠保存会と交流を深めることが出来た。 ■検討課題 <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの広報を効果的に行うことが出来なかった。（市報に載せる時期＝早すぎた？） ・サッカー好きではなく、歴史好きに向けたアピールが足りなかった。アピール対象の見極めが必要。 		
入場者数	1,046人	関連事業参加人数	111人（総人数）
関連記事	10月30日（水）新潟日報 朝刊「蹴鞠がつなぐ京との縁」 11月3日（日）市報にいがた「飛鳥井家の蹴鞠 実演と体験」 11月22日（金）新潟日報 朝刊「蹴鞠の実演 参加体験も 来月14、15日」 12月7日（土）新潟日報 朝刊（文化面）「蹴鞠の装束展」に寄せて」秋岡啓子 12月15日（日）新潟日報 朝刊 [話かご]（蹴鞠実演の記事）		
担当	秋岡 啓子、石垣 雅美		

IV. 日本のアンデルセン 小川未明

会期	平成26年1月4日（土）～3月30日（日） 74日間		
主催	上越市、にいがた文化の記憶館、新潟日报社		
後援	早稲田大学文化推進部、上越教育大学		
広報媒体	チラシ（A3二つ折り）		
趣旨	8月19日のネットワーク協議会開催を契機に上越市より出張展示の提案を受けて「日本のアンデルセン小川未明」を企画した。来館者に小川未明文学館に行っていただくため、文学館で展示していない資料を中心に、初期の小説集から晩年の生原稿までを借用し、作家としての幅広さを紹介。加えて、ご遺族から未明の遺愛品を借用できたことで、未明の人となりも紹介できる展示構成となった。会期中に、小川未明童話の新しい解釈をテーマに講演会（鼎談形式）を行った。		
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会「小川未明童話の新しい扉をひらく」 開催日：2月11日（火・祝） 会場：メディアシップ6階 ナレッジルーム ゲスト：小川英晴氏（詩人、ご遺族）、小埜裕二氏（上越教育大学教授） 聞き手：神林館長		
総括	○評価点 <ul style="list-style-type: none"> ・上越市の担当者との打合せを重ね、小川未明を知らない若い母親層を対象とした事業計画を立案した。それに合わせた広報として若い女性を対象としたタウン誌などでの情報掲載を行った。 ・プレスリリースに招待券プレゼントの申し込みを記載したことで、数社から、イベント 		

	<p>情報掲載を含めた招待券プレゼント依頼があった。ケーブルテレビの取材依頼もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川未明を知らない世代に向け、「赤い蠟燭と人魚」の紙芝居を展示するなど、見やすい展示を心掛けた。 ・新潟日報社の協力もあり、会期中に小川未明の名前を出すことが出来た。 <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシやポスターの制作が遅かったため、早くから本展の告知およびマスコミへのプレスリリース発送が出来なかった。 		
入場者数	1, 037人	関連事業参加人数	50人
関連記事	<p>12月5日(木)新潟日報 朝刊「小川未明の遺品 帰郷へ 新潟市で来月公開」</p> <p>1月12日(日)新潟日報 朝刊「小川未明と坂口謹一郎 上越の偉人 功績を紹介 文化の記憶館」</p> <p>1月13日(月)産経新聞 朝刊(県内版)「小川未明の童話作品や遺品紹介」</p> <p>1月17日(金)朝日新聞 朝刊(県内版)「イベント案内」(鼎談案内と招待券プレゼント)</p> <p>1月28日(火)新潟日報 朝刊(文化欄)「日本のアンデルセン 小川未明展に寄せて」小埜裕二氏</p> <p>2月8日(土)新潟日報 朝刊「風窓」(2月11日講演会の案内)</p> <p>2月12日(水)新潟日報 朝刊「小川未明の魅力 今こそ再評価を メディアシップ 孫ら講演」</p> <p>2月14日(金)新潟日報 朝刊「日報抄」(小川未明「眠い町」が題材となっている)</p>		
担 当	石垣 雅美		

IV. 酒博士 坂口謹一郎

会 期	平成26年1月4日(土)～3月30日(日) 74日間		
主 催	上越市、にいがた文化の記憶館		
後 援	坂口謹一郎博士顕彰委員会		
広報媒体	チラシ(A3二つ折り)		
趣 旨	<p>小川未明展の開催に併せて、同じ上越市出身の坂口謹一郎の顕彰展を企画した。会期中の3月に朱鷺メッセで酒の陣が開催されるのに合わせた形で「酒博士 坂口謹一郎」展とし、30代以上のお酒をたしなむ男性を対象とした事業計画・広報戦略を立てた。上越市が所管する坂口記念館から資料 点を借用。酒に関する資料や遺品だけでなく、「プロデューサー」「文化人」でもあった坂口の幅広さを紹介した。</p>		
総 括	<p>○評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本展のテーマ「酒」に合わせて、酒に関する資料を見せる展示構成が出来た。 <p>■検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒の陣開催に併せての企画であったのに、関連事業を企画出来なかった。 ・日本酒など酒関係の団体へのアプローチが出来なかった。 		
入場者数	(※小川未明展に準ずる)	関連事業参加人数	—
関連記事	1月12日(日)新潟日報 朝刊「小川未明と坂口謹一郎 上越の偉人 功績を紹介 文化の記憶館」		
担 当	石垣 雅美		

4. 教育普及事業

① 特別展示関連イベント（参加者総数：506人）

No.	事業名	開催日	内容	参加人数
1	特別講演「藤蔭静樹と遠藤実—二人の文化功労者—」	8月1日（木）	講師：神林館長 会場：クロスパルにいがた	65
2	八一祭／にいがた文化の記憶館 開設記念「講演＋舞踊と音楽のうたげ」【第一部】講演「鑑真和尚のこころと會津八一」【第二部】舞踊と音楽「斑鳩の四季」「法隆寺讃歌」「北国の春」「雪椿」	8月9日（金）	【第一部】講師：石田太一師 【第二部】琴：武藤宏司、笛：藤舎推峰、舞踊：藤蔭静樹（※會津八一の歌2曲、「北国の春」「雪椿」作曲：遠藤実） 会場：りゅーとびあ能楽堂	280
3	飛鳥井家の蹴鞠 実演と体験（主催：新潟市、当館）	12月14日（土） ～15日（日） （3回実施）	講師：京都蹴鞠保存会（9名） 会場：クロスパルにいがた	111 （総人数）
4	鼎談「小川未明童話の新しい扉をひらく」	2月11日（火・祝）	ゲスト：小川英晴氏、小笠裕二氏 聞き手：神林館長 会場：メディアシップ 6階 ナレッジルーム	50

② 講演・解説活動（参加者総数：515人）

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
1	開設記念講演「酒と日本文化あるいは新潟の文化」	6月3日（月）	講師：神林館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	130
2	館長講演『にいがた文化の記憶』とは」	6月4日（火）	講師：神林館長 会場：メディアシップ 6階 ナレッジルーム	44
3	〈館外活動〉新潟国際情報大学／異文化塾「沖縄学入門—神になった越後人—宮古島人頭税廃止運動の指導者・中村十作」	7月20日（土）	講師：武藤事務局長 会場：新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス	128
4	にいがた文化ネットワーク協議会 講演「にいがた文化の記憶館の設立について」	8月19日（月）	講師：神林館長 会場：新潟日报社 多目的ホール	30
5	〈館外活動〉2013・日本美術教育学会 記念講演『にいがた文化の記憶』について」	8月23日（金）	講師：神林館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	75
6	〈館外活動〉日本新聞協会 講演会「新潟の文化について」	9月6日（金）	講師：神林館長 会場：新潟日报社 多目的ホール	45
7	〈館外活動〉新潟県経営者協会 下越支部総会 講演会「郷土の偉人とにいがた文化の記憶」	3月11日（火）	講師：武藤事務局長 会場：ANA クラウンプラザホテル新潟 2階 芙蓉	63

③ 顕彰館・団体との連携普及活動

- ・にいがた文化ネットワーク協議会（開催日：8月19日、参加館数：30館）
- ・出張展示「日本のアンデルセン 小川未明」「酒博士 坂口謹一郎」の開催

④ 副読本

- ・当館主催にて副読本作成を計画。平成26年秋の発行をめざし、関係各者と協議中。

5. 調査・研究

No.	研修名	研修日	参加者
1	平成25年度 著作権セミナー	7月31日（水）	石垣 雅美
2	平成25年度 歴史資料保存管理実務研修	9月18日（水）	石垣 雅美
3	平成25年度 歴史資料保存管理実務研修	11月7日（木）	秋岡 啓子
4	平成25年度 歴史資料保存活用専門研修会	12月19日（木）	秋岡 啓子
5	平成25年度 歴史資料保存活用専門研修会	12月19日（木）	武藤 斌
6	東区の偉人“平出修”を知る 第1回（郷土人としての修～新潟から高田へ～	3月11日（火）	秋岡 啓子 石垣 雅美

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧

No	掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
1	新潟日報 別刷り	4月12日（金）	知と歴史の散歩へ にいがた文化の記憶館6月4日オープン 神林恒道館長インタビュー	—
2	新潟日報 読書欄	4月28日（日）	【にいがたの一冊】近代日米の壮大な歴史物語（内田義雄著「鉞子 世界を魅了した『武士の娘』の生涯」）	神林館長
3	新潟日報 1面	5月31日（金）	メディアシップ「文化の記憶館」本県の偉人 一堂に	—
4	日本経済新聞 35面	5月31日（金）	郷土の文化人知って「にいがた文化の記憶館」来月開業	—
5	新潟日報 窓	6月1日（土）	偉人の思想 次代へつなげ	—
6	産経新聞 21面	6月1日（土）	にいがた文化の記憶館 4日開館 會津八一ら150人紹介	—
7	新潟日報 14・15面	6月3日（月）	「知の回廊」の拠点 文化の記憶館 メディアシップにあす開館	—
8	新潟日報 30面	6月4日（火）	文化の記憶館きょうオープン 先人たちの業績 脈々と	—
9	新潟日報 夕刊1面	6月4日（火）	文化の記憶館オープン 県人の偉業に思いはせ	—
10	新潟日報 5面	6月5日（水）	【社説】文化の記憶館 地域の誇り未来に生かせ	—
11	新潟日報 26面	6月5日（水）	郷土の偉人 伝承を 文化の記憶館 神林館長が解説会	—
12	毎日新聞 24面	6月5日（水）	新潟にゆかりの文化人紹介施設 新潟に開館	—
13	新潟日報	6月20日（木）	【メディアなび】にいがた文化の記憶館 先人の業績と関係一目で	—
14	新潟日報	6月29日（土）	【話かご】（黒田俊子氏より記憶館へ作品寄贈の記事）	—

15	新潟日報 文化欄	7月5日(金)	雪梁舎20年の歩み 上 才能育む風土への畏怖	神林館長
16	新潟日報 文化欄	7月6日(土)	雪梁舎20年の歩み 下 叙情的なイメージ通底	神林館長
17	新潟日報	7月12日(金)	藤蔭静樹と遠藤実 偉業紹介の講演会 来月1日、新潟	—
18	新潟日報 30面	7月25日(木)	「斑鳩の四季」「法隆寺讃歌」八一の短歌 箏曲に	—
19	新潟日報	7月30日(火)	藤蔭静樹と遠藤実 講演で功績知って1日、新潟	—
20	新潟日報	8月10日(土)	愛される八一魅力探る 唐招提寺執事 鑑真との共通点講演	—
21	新潟日報	8月20日(火)	古里の宝 顕彰へタグ 文化の記憶館 県内施設と協議会	—
22	新潟日報	8月24日(土)	美術教育学会 「誇るべき新潟文化」 神林館長が講演 新潟で研究大会	—
23	新潟日報	10月30日(水)	蹴鞠がつなぐ京との縁 文化の記憶館で企画展	—
24	新潟日報 文化欄	10月31日(木)	国学者の系譜をたどる にいがた文化の記憶館「林家四代と良寛歌集展」	秋岡啓子
25	新潟日報	11月14日(木)	文化人の“宝庫”に感心 中宮寺門跡「記憶館」訪問	—
26	新潟日報	11月22日(金)	蹴鞠の実演 参加体験も 来月14、15日	—
27	新潟日報	12月5日(木)	小川未明の遺品 帰郷へ 新潟市で来月公開	—
28	新潟日報	12月7日(土)	「蹴鞠の装束展」に寄せて	秋岡啓子
29	新潟日報	12月15日(日)	[話かご] (蹴鞠実演の記事)	—
30	新潟日報	1月12日(日)	小川未明と坂口謹一郎 上越の偉人 功績を紹介 文化の記憶館	—
31	産経新聞	1月13日(月)	小川未明の童話作品や遺品紹介	—
32	朝日新聞	1月17日(金)	[イベント案内] (イベント案内と招待券プレゼント)	—
33	新潟日報 文化欄	1月28日(火)	「日本のアンデルセン 小川未明展」に寄せて	小笠裕二氏
34	新潟日報	2月8日(土)	「風窓」にいがた文化の記憶館 講演会「小川未明童話の新しい扉をひらく」	—
35	新潟日報	2月12日(水)	小川未明の魅力 今こそ再評価を メディアシップ 孫ら講演	—
36	新潟日報	2月14日(金)	[日報抄] (小川未明「眠い町」が題材)	—

② 雑誌掲載記事一覧

No	掲載紙名	掲載日	見出し
1	新聞協会会報 3面	6月25日(火)	[専用線] (記憶館の紹介記事)
2	市報にいがた	11月3日(日)	蹴鞠装束展 新潟と蹴鞠の歴史的背景
3	日本舞踊	11月号	[topic] にいがた文化の記憶館開設！初代藤蔭静樹ゆかりの品も
4	月刊ウインド	2月号	ウインドあ・ら・か・る・と (読者寄稿欄)
5	万代シティフリーマガジン NANA	2月号	2/11 (火・祝) 小川未明童話の新しい扉をひらく

③ テレビ放送一覧

No	テレビ局名	放送日	内容
1	BSN 新潟放送	5月30日(木)	「にいがた文化の記憶館 来週火曜日オープン」
2	BSN 新潟放送	6月3日(月)	「にいがた文化の記憶館 明日オープン」
3	NST	6月3日(月)	「先人の偉業伝える にいがた文化の記憶館」
4	NCV ケーブルテレビ	3月中に複数回	(小川未明展及び関連事業の紹介)

④ 募金広告掲載一覧

掲 載 紙 名	新潟日報 地域欄
掲 載 日	毎水曜日(掲載期間:平成25年4月3日~平成26年3月26日)
掲載した文化人 (掲載順)	荻野久作、岩田正巳、式場隆三郎、小野塚喜平次、小金井良精、佐々木象堂、三輪晃勢、渡辺義雄、鷺尾雨工、長谷川海太郎、伊藤誠哉、大橋佐平、益田孝、小田嶽夫、浅島誠、小山正太郎、天田昭次、鈴木文臺、伊藤赤水、中田瑞穂、小柳司氣太、長谷川泰、三浦小平二、横山操、玉川宣夫、石山賢吉、長谷川巳之吉、小山作之助、金子健二、尾台榕堂、青山杉作、北一輝、巻菱湖、内山賢次、石田吉貞、久保田きぬ子、會津八一、池田恒雄、石塚三郎、石田名香雄、青野季吉、安宅安五郎、市島謙吉、小川亮作、川田芳子、牛腸茂雄、川上四郎、小唄勝太郎、駒形十吉

7. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展示事業	常設展示	○関連展示を年度内に2回展示替えをできたことで展示空間をマイナーチェンジできた。 ○展示ケース内に温湿度計を設置し定時に計測することで展示環境の維持に努めた。	▲年4回で1分野毎の展示替えはマンパワーと予算面で難しいため、関連資料の展示替えに切り替えていくなど現実的な対応をした。 ■展示資料が変わったことが分かるような展示プランを立てるなど来館者が繰り返し鑑賞できる工夫が課題である。
	特別展示	○上越市による出張展示が出来たことで、開設目的である県内顕彰館との連携の第一歩が踏み出した。	▲これまでの出張展示での広報計画を見直し、出張展示で現地に足を運んでもらうための広報戦略が必要である。 ■公立の館が多いため、連携は数年先のスケジュールを組んで予算準備をしてもらう必要がある。早めに広報・事業計画を立案することがとの連携を図ることは今後の課題である。

教育普及 事業	イベント、 講演・解説	○講演等イベントの受講をきっかけとした来館者を一定数確保できた。	▲広報不足のため、参加者の応募状況が芳しくない。今後は早めの企画による広報戦略が課題となる。 ■新潟日報メディアシップと連携したイベントを企画し、パイロット事業として仕組みを作り上げていくことが課題である。
	顕彰館・団体との連携	○パンフレット設置、画像提供等での協力を得た。 ○初年度にネットワーク協議会を開催したことで出張展示が開催できた。 ○当館での出張展示をきっかけに施設入館者数が増えたという館があった。 ○次年度以降の出張展示の提案をいただき、開催準備ができた。	▲25年度の事業計画案に機関誌「にいがた文化」（仮称）の発行を挙げていたが、作成できなかった。 ■8月の開催後は顕彰館・団体との全体的なネットワークを図ることが出来なかったため、2年目は連携を図るための発信が課題である。
	副読本	○新潟日報社の協力により、25年度内に関係者を含めたフレームワーク等の事前準備ができた。	▲25年度内に編成委員会設立準備までは進まなかったため、26年度上半期で作業スピードを上げることが必要。 ■平成27年度に向けて、副読本の活用とあわせ、小・中学生の入館者数増加を目指すための仕組みづくりが課題です。
	選定委員会	○お客様からの選定のご意見を集約し、選定委員会に備えている。	▲25年度の事業計画に挙がっているが、委員会発足までに至らなかった。26年度下半期での発足、選定を目指して準備を進める。
調査・研究		○学芸業務にかかる研修に参加できたことで業務を遂行しやすくなった。	▲文化人を調査し、データを蓄積するまではできなかったことが課題である。
広報		○県内の文化施設やギャラリー、図書館、観光関連施設、またメディアシップ内で行われるイベント等にポスター、チラシを設置してもらうことで幅広い	▲予算が限られている中での広報戦略の見直しが必要。 ▲ホームページリニューアルのため、

	<p>層にアピールできた。</p> <p>○新潟日報紙面(「先人のふるさと」等)との連携を図るための協力体制を築いている。</p>	<p>開設前の内容を更新できない状態であった。26年5月中に完全リニューアルを完了し、アップする。</p> <p>■チラシやポスター、ホームページなど発信し続けることによる活動状況を普及させることが課題である。</p>
--	---	---

8. 職員

- 館長 神林 恒道
 事務局長 武藤 斌
 学芸員 秋岡 啓子
 学芸員 石垣 雅美
 ※ほか臨時職員 2名

【参考資料】

◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	<p>6月3日開設式典出席者（計146人）、新潟市長、長岡市長、新潟市副市長、新潟市議長、新潟県教育長、徳川記念財団理事長、胎内市議会、上越市長（代理）、大矢紀氏、わしま良寛の里館長、玉川堂・玉川氏、県市町村振興協会事務局長、遠藤実記念館館長、ソロプチミスト日本財団理事長、新潟市美術館館長、唐招提寺執事、ブルボン吉田記念財団理事、新潟ライオンズクラブ会長、藤沢周氏、新潟県知事政策局長、新潟県副知事、北前船フォーラム関係者、観世流能楽師、新潟新能運営委員会、中宮寺門跡、長岡市科学博物館名誉館長・牧野忠昌氏ご夫妻、在新潟中国総領事館、京都蹴鞠保存会、県立歴史博物館副館長、新井満氏、瑞泉酒造株式会社社長、大矢鞆音氏</p>
ご遺族	<p>荻野久作ご遺族、平出修ご遺族、大野耻堂ご遺族、長谷川泰ご遺族、藤蔭静樹ご遺族、尾竹竹坡ご遺族、竹山病院、小川未明ご遺族、関屋俊彦ご遺族</p>
団体観覧（一般）	<p>阿賀野市中央公民館、日報トキの会、新発田市中央公民館、南魚沼アジア交流会、赤塚地区研修会、中ノ口竹老人会、くびき野紀行団、日本新聞協会、東芝幹部研修、見附市文学サークル、糸魚川市文化協会、西川老人会、長岡商工会議所、長岡高校同窓会、加茂市、西蒲区、長岡市和島公民館いきいき大学、小千谷高校同窓会、NIC 所長夫人ご一行、新発田市、三条市保内分館、長岡市坂之上コミュニティセンター、南ロータリー、ハツカ会、第四銀行西山支店、田上町退職議員連盟、NIC 五泉・村松（新春展㊿）、新潟良寛会、池田記念美術館、NHK おはよう会</p>
団体観覧（学校）	<p>佐渡市新穂小、長岡市江陽中、関川村関川中、燕市燕北中、新潟市小瀬小、新潟市東石山中、三条市大浦小、新潟市臼井中、新潟市桃山小、新潟市濁川小、新潟市石山中</p>